

平成27年 7月 3日

報 告 書

那須塩原市議会議長 中村 芳隆 様

那須塩原市議会 第1班班長 君島 一郎
記録者 星 宏子
佐藤 一則

下記のとおり報告会を開催いたしましたので、報告いたします。

記

1. 日 時 平成27年 5月18日（月）午後6時30分～8時30分

2. 会 場 三島公民館

3. 担当議員と役割

【担当議員】

君島 一郎（班長）
金子 哲也（副班長）
磯飛 清（司会者）
鈴木 紀（定例会の審議内容・結果について報告）
相馬 義一（放射能対策検討特別委員会）※報告なし
鈴木 伸彦（議会活性化検討特別委員会報告）
伊藤 豊美（庁舎建設検討特別委員会報告）
星 宏子（記録）
佐藤 一則（記録）

【応援議員】

藤村 由美子、齊藤 誠之、櫻田 貴久、高久 好一

4. 参 加 者 別紙受付表のとおり
・市民32名（男性26名、女性6名）
・市外11名（男性11名）

5. 主な意見・要望

質疑・応答

<定例会について>

Q：議会だより 57 号の陳情第 1 号議案の全員反対の内容について

A：陳情第 1 号議案は、給水区域の指定及び公営水道の敷設に関するもので、現在使う水に困っているのを市の水道を敷設するよう要望するものでした。常任委員会で現地調査した結果、実際には、現在の水道が使える状況にあり、水道管を敷設するのに数百人の地権者から同意を得られないことから、不採択になりました。

<放射能について>

Q：放射能特別委員会は3年目になるが、どのような話し合いがなされているのか。

A：市の除染が今のところスムーズに行っている。特別委員会の動きでは会議は持っていないが、被害者支援法の施策の推進に関する基本的な方針案に対する意見書、パブリックコメントに議会として意見を申している。県境だけで基本方針が変わってしまう事に対する意見も提出するようになっている。来月の13、14日に子どもを守る会が甲状腺のエコー検査を開催するのを委員会で様子を見たいと思っている。

Q：放射能対策特別委員会の報告がないが、何も審議していないのか。

A：特別委員会として、平田クリニックの甲状腺検査現場や須賀川市・白河市及び本市の除染現場の視察や、関谷小学校周辺通学路のカラーマットの除去と校舎周りの除染を執行部へ要望してやっていただきました。

<議会活性化について>

Q：政治倫理条例に関する委員会設置に対する見本があったのか。

A：会津若松市、つくば市等視察・検討して本市に最も状況に合うものとして作成した。

Q：議会の監視並びに評価能力の向上とあるが、議会の何を監視するのか。

A：議員同士で住民を代表する公職者がその権利や地位や影響力を不正に行使して私利を得る行為です。

Q：評価能力というのは何を評価するのか。

A：議会基本条例の 11 条にある審査案件を増やしたことです。

<庁舎建設について>

Q：新庁舎建設にあたり、2,000 人にアンケート調査を行ったデータの基準は何か。

A：統計学からです。

Q：新庁舎を建設した場合、既存の本庁舎と支所の機能はどうなるのか、今の庁舎のままで税金を安くしたほうがいいのではないかと。

A：新庁舎建設にあたり、合併時の協定項目で、那須塩原駅から 1 km 以内に建設するという部分で、市として平成 30 年の完成目指して進めているところです。

Q：構造的に問題のある庁舎を今後使う予定はあるのか。

A：問題があるのは黒磯の本庁舎のことであり、合併時の協定で本庁舎を那須塩原駅から 1 km に建設するということです。

Q：平成 30 年完成でなくても、東京オリンピックが終わってからもいいのでは。

A：建設については、検討委員会が設置されており、建て直すとの結論が出ています。

意見交換

＜地域における高齢者の見守りについて＞

Q：地域の見守りといっても監視になるのでは。5年後10年後には40%は高齢者になる。待ったなしだが、ただやれと言われてもどうやったらいいのか、教えてもらいたい。

A：プライバシーをどこまでおさえるのか。独居老人の方の存在の確認を地域でしていただければ。

議会への意見・要望

意見＜放射能対策特別委員会＞

Q：私たちは、未来の子どもたちに対する不安や危惧がある。私たちの代表である皆さんが放射能は関係ない、国が言っているじゃないかという事を平気で言うなら問題だ。委員会の活動に心配しているみなさんの話を聞くことに力を入れていただきたい。

A：貴重な意見として承っております。

要望＜放射能対策特別委員会＞

Q：除染は子供のいる世帯のみ。子供のいない世帯は雨どい下だけ。将来子供が孫を連れて戻ってきたときは、非常に線量の高いところで生活をしなくてはならない。希望があったお子さんの家が終わったという認識を変えていただきたい。公園も芝刈りだけで芝を外したわけではない。予算は福島県ではないので補助金が出ないが、そこを目指して国や県等に働きかけをしていただきたい。

A：福島県は高線量メニュー、栃木県は低線量メニューという国交省に対し、意見書も提出している。今後しっかりと取り組んでいく。18才未満の子どものいる世帯の除染も本市独自の取組としてやり、国から補助金が出た経緯もあるので今後検討していく。

Q：住宅除染が3月で終了したということだが、除染前後のデータを把握して、線量が下がらない所の今後を検討していただきたい。山菜等出荷自粛になっているものを広報活動してほしい。

A：除染の結果は、広報紙等で示していると思います。山菜等の結果も出していますが、まだ線量が高い状況にあるので、特別委員会として、しっかりと捉えていきたい。

要望＜庁舎建設検討特別委員会＞

Q：新庁舎建設が決定したからといって納得したわけではない。鹿沼市では先送りしたのでもう一度考える方法はないか。

A：議会の中で再度議論してみたい。

Q：窓口をIT化し、スカイプでつなぎ庁舎間で顔を見ながら対応できるのではないか。

A：持ち帰り研究させていただきたい。

執行部への意見

意見＜新庁舎建設＞

Q：本庁は作らないで欲しい。IT化が進んでいるので効率化も図れる。立派な庁舎を作っても市長は評価されない。

A：意見として市に伝える。

意見＜地域における高齢者の見守りについて＞

Q：見守る人と、見守られる人を区別せず全部見守り隊に参加すればいいのでは。自分ができる仕事があることになる。子供の虐待はなかなか見えないので、そちらをやっていただきたい。

A：すべての人がやったらいいのではという部分は意見として受けさせていただく。

この事業の目的も高齢者に生きがいを持ってもらうというのがある。丈夫な方には参加していただくのも一つの方法かなと思います。

- ・ まずは声を掛けてみて、地域の方の反応をみる。断られたら仕方がないのでは。
- ・ 支援団体を法人化しようと取り組んでいるが、その地域に住んでいる人は全員名前を書いて頂かなければならないが、うまくいくかどうか分からない。
- ・ 自分の考えでは、一軒一軒普通に行って家族の方といろいろ話す中でデータを集めるしかない。声を掛けて断られた場合は除外するしかないと思う。
- ・ 自分は〇〇さんと気が合わないが隣の〇〇さんとは気が合う等、グループの中で気の合う人を見つけてくるような手法もある。
- ・ 家を月一回解放してサロンを開くことを考えている。小さい拠点がたくさんあるといいと思う。
- ・ 声かけできる人間関係を組内から広げていく。肩肘張っていくと自分も疲れるし、相手も疲れてしまうと思う。
- ・ 自治会に加入していない老人世帯をどうするのが課題である。

執行部への要望

要望＜放射能対策＞

Q：分譲地、雨水調整池の除染をしてほしい。

A：今後、検討委員会としても市に意見をすぐに届けます。

要望＜地域における高齢者の見守りについて＞

Q：南郷屋自治会では友愛訪問をやっている。問題は、敬老会に呼ばれている方は名前がわかるが、ほかの人はわからない。災害時の登録も一人しかいない。報告を上にあげるが、何をしてくれるのか説明もない。見守りの必要性はわかるのでもう少し大きく考えないとならない。

A：細かい部分の市の説明がほしいという事を執行部に話をする。

- ・ 自治会にただやれやれじゃなく、市の担当者も勉強してもらい、自治会で勉強会を開き指導していただきたい。
- ・ 見守り隊の選任はボランティア的な要素も含まれるため、プライバシーの制約を考えると慎重にやっていただきたい。

<テーマ以外で西那須野地区に関する意見交換>

意見なし

<その他>

Q：意見はここで意見交換して終わりか。

A：意見交換で出されたものは、回答していないもの、要望を出すもの、各常任委員会の中で再度検討して、市民からの意見があったものをまとめて、執行部に出すものについては議長名で市長に提出している。

6. 報告会の運営について（感想、反省点等およびその改善策）

- ① 庁舎建設については、議会として統一見解を出し、シュミレーションが必要ではないか。
- ② 多くの参加者から意見・質問を受けたいので、状況により特定の参加者に偏らないように一人一問としてはどうか。
- ③ 参加者の意見を出しやすくするためワークショップを取り入れた場合、複数のグループになった時、他グループの影響を受けない配慮が必要ではないか。
- ④ テーマ選定にあたり地域の声を事前に確認をしてはどうか。
- ⑤ ターゲットを明確にして、テーマを決め開催日及び時間の設定を考慮する。
- ⑥ より多くの女性が参加できる環境を作ったらどうか。例えば保育園や幼稚園での開催。
- ⑦ 選挙権が18歳以上に改められたのを受け、政治への関心を持ってもらうために高校や大学に出向いての報告会があっても良いのではないか。
- ⑧ 今回は、放射能対策検討特別委員会の報告がなかったが、毎回報告をしたほうが良いのではないか。